

令和3年12月1日

医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画（令和3年度）

当院では、医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制を整備し、次のような取り組みを行っています。

取組の目標

当院が地域の急性期病院であることを再認識し、急性期病院の役割を果たすため、医師、看護師、医療従事職員等との間での業務の役割分担を推進して全職員の負担軽減に対する体制を確保することを、目標とする。

令和3年3月現在の勤務医の勤務状況

1. 医師数 常勤46名（研修医除く） 非常勤25.3名（常勤換算4.5名）
2. 常勤医師平均業務時間 平均週45時間45分
3. 当直回数 平均月1.5回

●医療従事者の負担軽減及び処遇改善

項目①外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携など外来縮小の取り組み

○令和2年度までの取り組み

- ・地域医療支援病院の承認（平成23年）を受け、外来医療の機能分化を推進してきた。

○現状

- ・令和2年度 逆紹介数6,651 ・逆紹介率109.4%

<逆紹介率の推移>

平成29年度 6,642件 84.7%

平成30年度 6,607件 81.6%

令和1年度 7,667件 100.4%

令和2年度 6,651件 109.4%

○令和3年度の目標

- ・地域医療支援病院の機能を維持し、地域の医療機関との機能分化推進を継続する。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・4月～8月 逆紹介数2,858件（+213件）
- ・COVID感染症の影響で患者数が減少した昨年度よりは逆紹介数は増加した。
- ・地域内の感染拡大状況によっては転院待機期間が延長することがあった。

○令和2年度までの取り組み

- ・地域連携パスの運用を推進してきた。

○現状

- ・大腿骨頸部骨折・脳卒中連携パスの運用の推移

平成29年度 282件 平成30年度 242件

令和1年度 239件 令和2年度 230件

- ・参加医療機関との3回/年の会合の実施。
- ・連携病院との症例検討会の実施。

○令和3年度の目標

- ・今まで通り、地域連携パスがスムーズに運用できるようにする。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・地域医療連携パスは問題なく運用している。※令和3年4～8月94件(-15件)
- ・連携医療機関とは、日々の電話連絡や、書面やリモートでの会議等により交流を持ち、良い関係性を維持している。

○令和2年度までの取り組み

- ・入退院支援センターを設置し、入退院支援の充実を図っている。

○現状

- ・退院支援に関しては退院支援担当者により、退院後必要時、訪問診療等の対応が可能な医療機関の情報提供を行って支援している。

○令和3年度の目標

- ・看護部と協働し、業務改善に取り組む。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・看護面談担当者との情報共有の他、病棟でのカンファレンス等の参加に努め、早期に退院困難患者の支援を開始して、状況に応じた逆紹介先等を提案、調整している。

○令和2年度までの取り組み

- ・地域医療連携ネットワーク活動や新規開業クリニックの訪問活動により、医療機関の専門性を把握し、逆紹介情報に役立ててきた。

○現状

- ・連携室への問い合わせの際には適切な紹介先の情報提供が行えるようにしている。

○令和3年度の目標

- ・地域医療連携ネットワーク活動はZOOMミーティングにて継続し、近隣医療機関との情報共有に努め、逆紹介が支援できるようにする。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・参集してのネットワーク活動は自粛せざるを得ない状況である。
- ・新規開業クリニックへの訪問活動は行っている。

○令和2年度までの取り組み

- ・予約枠数を特に制限していない。

○現状

- ・予約枠数を超えて、予約が入っている。

○令和3年度の目標

- ・更に調査を進め、診療科ごと、曜日ごと、時間帯ごとの最適人数を設定し、外来待ち時間の減少に努めていく。また、かかりつけ医についても、更に検討し、実績に結びつくより良い運用を検討する。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・10月中に患者さんへ、待ち時間に関するアンケートを実施し、診療科ごとの待ち時間詳細を調査。それに合わせ適正な予約枠等の検討を進める。かかりつけ医についてもなかなか実績に結びついてない現状となっており、より良い運用の検討を更に進める予定。

項目②院内保育所の設置（夜間帯の保育や病児保育の実施が望ましい）

○令和2年度までの取り組み

- ・職員の子育てを支援し、安心して働き続けられる勤務環境整備を目的として院内保育所の設置を検討している。

○現状

- ・開院時の運営開所については病院移転後の経営状況を勘案し開所を延期している。

○令和3年度の目標

- ・経営状況も含め院内保育所開所の可能性および職員の子育てを支援、働き続けられる勤務環境整備を継続して検討していく。
- ・臨時的に他の用途に転用している状況を踏まえつつ、委託費運営経費等病院負担を考慮し検討していく。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・院内保育所開所運用の可能性を検討しているが未達。子育て支援・勤務環境の整備は継続検討。
- ・臨時的に他用途に転用して使用。
- ・運営委託費の検討。

項目③医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業の負担軽減

○令和2年度までの取り組み

- ・主たる業務は文書作成補助。その他、担当者毎で担う業務が多少異なっている。

○現状

- ・令和2年2月、20：1取得。
- ・外来代行業務1名配置(循環器内科1名)(令和2年4月～)

○令和3年度の目標

- ・全科の生命保険診断書などの文書作成補助等による負担軽減の継続。
- ・外来代行業務の配置者増員(1～2名)。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・文書作成補助等による負担軽減は継続している。

項目④病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善

○令和2年度までの取り組み

- ・受持ち制から複数主治医制への変更導入を推進している。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・診療科の特性があり、複数主治医制の導入は全科にて実施されていない。
- ・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。
- ・安全衛生委員会と連携し長時間労働となる医師の業務現状を把握し、健康管理面を含め、診療部長へ報告対策を実施。

○令和3年度の目標

- ・診療科の特性を踏まえつつ、可能な限り、複数主治医性制の導入推進。
- ・4月より全科二次輪番日における交替制勤務の導入、勤務明けの休みを確保。
- ・病状説明（IC）時間内実施の推進。
- ・時間外入院患者死亡確認及びお見送りを当直および夜勤医師へ委任。
- ・時間外オンコール呼出し診療科ルール作成の取り組み。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・診療科において複数主治医制の導入を推進、一部実施。
- ・全科二次輪番日における交代制勤務導入実施及び勤務明けの休み取得は部分的に実施。一部達成。
- ・ICの時間内実施は可能な限り勤務時間内に実施することとしている。
- ・時間外における死亡患者の見送りを当直医・夜勤医へ依頼は一部実施。
- ・時間外オンコール呼出し診療科のルール作成は取組中

継続

項目 ⑤特定行為研修修了者である看護師複数名の配置及び活用による病院勤務医の負担軽減

- 令和2年度までの取り組み
 - ・平成29年度福島医大特定行為研修に1名受講。区分：創傷管理関連、創部ドレーン管理関連、栄養及び水分に係る薬剤投与関連、ろう孔管理関連。
- 現状
 - ・皮膚科医師、心臓血管外科医師の手順書及び指導により、診療介助から特定行為を実施することがある。
- 令和3年度の目標
 - ・特定行為研修修了者の特定行為の実施。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・特定行為研修修了者2名が特定行為を実施。

項目 ⑥院内助産又は助産師外来の開設による病院勤務医の負担軽減

- 令和2年度までの取り組み
 - ・助産師外来の充実。
- 現状
 - ・助産師外来の実施により、産科婦人科外来医師の負担軽減につながっている。
- 令和3年度の目標
 - ・助産師外来の継続。
 - ・分娩件数年間200件以上。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・助産師外来の継続。
 - ・分娩件数令和3年4月～8月 79件。

項目 ⑦看護補助者の配置による看護職員の負担軽減

- 令和2年度までの取り組み
 - ・3B、5A、5B、6B病棟に夜勤看護補助者を配置。
- 現状
 - ・25対1急性期看護補助体制加算を令和元年6月から12月まで算定できた。
- 令和3年度の目標
 - ・25対1急性期看護補助体制加算算定の継続、
 - ・100対1夜間急性期看護補助体制加算算定の継続のための離職防止と職員の安定確保。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・25対1急性期看護補助体制加算算定の継続、
 - ・100対1夜間急性期看護補助体制加算算定の継続のための離職防止と職員の安定確保。

●病院勤務医の負担軽減及び処遇改善

項目①勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施

○令和2年度までの取り組み

- ・医師当直勤務表により連続して当直を行わない勤務体制を構築している。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・当直日に配慮し、連続して当直勤務を行わない勤務体制を実施し、医師の負担軽減を図っている。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和3年度の目標

- ・引き続き医局の当直勤務表作成の担当者が連日当直にならないよう調整を図るとともに総務担当者による確認を行う。

○令和3年度の目標の達成状況

達成

- ・医局当直勤務表作成の担当者が連日当直にならないよう調整し、総務担当者による確認を実施。
- ・二次救急輪番日の福島医大救急科の他に特定診療科への当直支援を受け、負担軽減を実施。

項目②前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時刻の休息時間の確保（インターバル）

○令和2年度までの取り組み

- ・各診療科で翌日の業務予定を考慮しオンコール体制を組んでいる。

○現状

- ・各診療科で翌日の業務予定を考慮しながら、オンコール体制を組んでいる。

○令和3年度の目標

- ・主任部長により、休暇申請および時間外申請にて遅くまでの勤務届出を確認する。
- ・前日遅くまでの業務の場合は、支障のない範囲で出勤時間を遅らせる等、各主任部長に、前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間が確保できるよう、継続して配慮要請するとともに完全休日の設定を要請する。

○令和3年度の目標の達成状況

達成

- ・主任部長による時間外申請の確認実施。
- ・各診療科にて翌日の業務予定を考慮し、オンコール体制を組んでいる。
- ・休息時間および完全休日については要請実施。結果は完全ではないが取組継続。

項目③ 予定手術前日の当直や夜勤に関する配慮

○令和2年度までの取り組み

- ・各診療科および当直表体制担当により予定手術前日の当直を行わないように配慮している。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・各診療科および当直表体制担当により外科系予定手術前日の当直を行わないように配慮している。
- ・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和3年度の目標

- ・継続して外科系予定手術前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表担当者が配慮する。更に内科系予定手術でも前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表担当者が配慮する。
- ・手術室の効率的な運用、午前中開始や同一科の複数実施の際の効率運用を推進。

○令和3年度の目標の達成状況

達成

- ・各診療科および当直表体制担当により外科系予定手術前日の当直を行わないように配慮。内科系予定手術でも配慮実施。
- ・継続。

項目④ 当直翌日の業務内容に対する配慮

○令和2年度までの取り組み

- ・各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除する。

○現状

- ・各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除しているが、診療科の特性により実施できないケースがある。

○令和3年度の目標

- ・引き続き各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務負担の緩和を考慮するよう主任部長へ要請する。
- ・研修医も同様に研修科の指導医による配慮を要請し実施していく。

○令和3年度の目標の達成状況

達成。

項目⑤交替勤務制・複数主治医制の実施

- 令和2年度までの取り組み
 - ・複数主治医制の導入を検討し、可能な診療科より負担の軽減を図る。
 - 現状
 - ・現在、複数主治医制を導入している診療科とできていない診療科がある。
 - ・4月より全科二次輪番日に交替制勤務を導入（令和2年4月）。
 - 令和3年度の目標
 - ・主治医と担当医と一緒に回診し患者情報を共有し休みを確保する。
 - ・現在複数主治医制を導入していない診療科に対し、検討し負担の軽減を図るよう要請していく。
 - 令和3年度の目標の達成状況
 - 一部達成。
 - ・配置人員により可能な診療科にて複数主治医制を導入し、負担軽減を図っている。
 - ・休日の確保に合わせ年次有給休暇の取得を推進。
 - ・年休の管理と取得の推進。
- 継続。

項目⑥育児・介護休業法第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用

- 令和2年度までの取り組み
 - ・子育て中の女性医師に対し、当直免除などの対策をとっている。
 - 現状
 - ・同上。
 - 令和3年度の目標
 - ・対象となる医師が発生した場合は、育児・介護休業法で定める期間は、週30時間以上の勤務で常勤扱いとなることを考慮しつつ、該当する医師に関しては、短時間勤務の導入を検討していく。
 - 令和3年度の目標の達成状況
 - 達成。
 - ・育児休業取得対象となる医師が発生した場合は、育児休業、育児短時間勤務の申出、取得について制度を説明。女性医師に対し、当直免除などの対策をとっている
- 継続。

●医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目 初診時の予診の実施

- 令和2年度までの取り組み
 - ・待ち時間が長くなってしまい、問診コーナー廃止。
 - ・玄関での問診票記載の確認、介助、トリアージを実施。
 - ・各科外来で診察までに紹介患者、新患の情報収集。
- 現状
 - ・患者が記載した問診票の漏れや間違い等、正確な情報を把握できないことがあるため、看護師による確認を実施しているが、全ての確認はできていない。
- 令和3年度の目標
 - ・初診の問診票記載時に、看護師が確認して正確な情報収集に繋げる。
 - ・COVID-19の症状、エピソードを問診して入り口で感染予防に努める。
- 令和3年度の目標の達成状況
令和3年4月～8月実施件数
 - ・初診時の問診確認 998件。
 - ・コロナ問診再確認（該当項目あった場合） 296件。

項目 静脈採血等の実施

- 令和2年度までの取り組み
 - ・採血室における採血。
- 現状
 - ・検査部の管理で実施している。検査技師1名、看護師1名が専属。看護師1名検査技師1～2名を補助。
- 令和3年度の目標
 - ・採血の精度を上げ、また患者対応にも注力し、気持ちよく採血が済むような採血室の運営を目標としている。
- 令和3年度の目標の達成状況
採血担当者は固定の技師・看護師に加え日替わりで技師が担当しているが各自採血の精度は確実に上がっている。被採血者からの苦情もなく採血検体のトラブルも殆どない状況であるため概ね目標は達成されている。

項目 入院の説明の実施

- 令和2年度までの取り組み
 - ・PFM（入退院支援センター）を設置し、一連の流れで、入院決定時と入院日に、必要事項を患者・家族に説明を行う。
- 現状
 - ・入院決定日に、入院の案内パンフレットの配布と説明、入院手続き書類の説明、患者プロフィール用紙の記載説明等を行う。
 - ・入院日に必要書類を確認。
 - ・外来看護師・病棟看護師が事務的な説明に介入しないことにより、業務負担軽減を図っている。
- 令和3年度の目標
 - ・PFM内で連携を密にし、入院時の説明をスムーズに行う。
 - ・コロナ問診票や体温測定等、担当看護師と更なる連携を図りスムーズな運用を目指す。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・予約入院の方も問診票回収時に、ワクチン接種の有無と接種日の確認をおこない記入する運用とした。
 - ・入院日までの自宅での過ごし方などの病院からのお願いごとを案内を基に説明をする運用とした。

項目 検査手順の説明の実施

- 令和2年度までの取り組み
 - ・検査説明看護師の配置は困難だった。
 - ・時間を要する大腸内視鏡検査の説明を、内視鏡センター看護師が行う事にした。
- 現状
 - ・内視鏡センターが多忙時には内視鏡センター看護師が検査説明ができず、説明待ちの患者を待たせることになるため、外来看護師が検査説明の応援に出向くことがある。
- 令和3年度の目標
 - ・時間を要する大腸内視鏡検査の説明を、内視鏡センター看護師が行う。
 - ・大腸ポリペクトミー・EMR（1泊2日）パスの説明を外来看護師が行う
- 令和3年度の目標の達成状況
 - 令和3年4月～8月実施件数
 - ・大腸内視鏡検査説明 387件
 - ・大腸ポリペクトミーEMR（1泊2日）パス説明件数 2件。

項目 服薬指導

- 令和2年度までの取り組み
 - ・薬剤管理指導料1, 2算定。
- 現状
 - 薬剤管理指導料1算定件数(①) 2, 943件(令和2年)
 - 薬剤管理指導料2算定件数(②) 4, 612件(令和2年)
- 令和3年度の目標
 - ①算定件数 3500件(年)
 - ②算定件数 4800件(年)
- 令和3年度の目標の達成状況
 - 令和3年4月～8月 実績
 - ①1, 152件②1, 976件
 - 産休2名、妊娠判明2名、11月退職者1名の中で後半は縮小か。

項目 クリニカルパスの活用

- 令和2年度までの取り組み
 - ・入院期間や治療内容を検証し、医療の質の標準化向上。
 - ・診療記録の充実、簡素化。
- 現状
 - ・クリニカルパス作成数や使用率等クリニカルパス委員会で集計し、システム掲示板にて周知。
 - ・新規パスについては、随時承認。
 - ・新規パス作成により医師の指示記載の負担軽減。
 - ・業務の可視化により、職種ごとの役割の分担。
- 令和3年度の目標
 - ・電子パスの作成による医師指示入力負担軽減。
 - ・新規パスの作成。
 - ・パスの入院期間の適正化。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・電子パス稼働診療科医師へ業務負担軽減効果についてのアンケートを実施。アンケートに回答した17名すべての医師が、「電子パスが業務負担軽減につながっている」と回答。
 - ・小児科「気管支炎」「胃腸炎」パスを新規作成
 - ・耳鼻科「鼻炎・彎曲症」消化器内科「ポリペク(1泊2日)」循環器内科「カテ・PCI(当日)」などパスの細分化を行い入院期間の適正化に取り組んでいる。また、産婦人科パスについて診療科・病棟のご協力の元、入院期間の見直しを行っている。

項目 救急医療等における診療の優先順位の決定

- 令和2年度までの取り組み
 - ・トリアージの研修を受けた看護師を救急センターに配置しトリアージを実施している。
- 現状
 - ・救急車両で来院した患者の診察介助をする傍らで、ウォークインの患者のトリアージを看護師が実施し、優先順位に即した医師の診察に繋げている。
- 令和3年度の目標
 - ・トリアージを継続する。
 - ・トリアージ研修未受講看護師の受講を勧める。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・令和3年4月～8月実施件数
院内トリアージ件数 140件
 - ・トリアージ研修なし

項目 薬剤師の病棟配置

- 令和2年度までの取り組み
 - ・2病棟3人体制。
- 現状
 - ・同上
- 令和3年度の目標
 - ・2病棟4人体制。産休等で2人減員の中、工夫して運用にこぎつけたい。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・年度当初は、体制できたが、妊娠等による年休取得、11月での退職希望者などあり、厳しい状況。

項目 内視鏡検査補助

- 令和2年度までの取り組み
 - ・内視鏡業務における医師の手伝い。
- 現状
 - ・生理検査より派遣。
- 令和3年度の目標
 - ・産休明け技師の教育と、他部門（内視鏡センター）への応援体制を構築。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・生理検査室内での業務の多様化から内視鏡センターへの応援体制は取れていないのが現状である。

項目 耳鼻科領域の検査補助

- 令和2年度までの取り組み
 - ・聴力検査等の手伝い。
- 現状
 - ・検査部より派遣。
- 令和3年度の目標
 - ・耳鼻科領域の検査者を増やすことを目標としている。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・着実に検査を実施可能な技師が増えている。また語音聴力検査依頼も対応できるよう検討中である。

項目 病棟・外来の採血管等検査機材の補充

- 令和2年度までの取り組み
 - ・担当を決め各部署の在庫管理をしている。
- 現状
 - ・検査部ほぼ全員で実施。
- 令和3年度の目標
 - ・外来、病棟それぞれの特性を理解し、より無駄を省いた在庫の管理を目標としている。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・検査部の新人も作業員に加わり実施している。概ね目標は達成している。標継続。

項目 健診部門において心電図要員として技師1名を派遣

- 令和2年度までの取り組み
 - ・健診者の心電図検査。
- 現状
 - ・朝の時間検査部より派遣。
- 令和3年度の目標
 - ・効率よく検査を実施し生理検査業務に戻る。
 - ・臨床検査室からも応援体制をとることで効率よく作業する。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・臨機応変に生理検査室または臨床検査室の技師が対応している。概ね目標は達成されている。

項目 栄養指導指示書作成

○令和2年度までの取り組み

- ・看護師と連携して栄養指導の必要性のある入院患者に対し、栄養指導指示書を代行入力する。

○現状

- ・全病棟実施。 件数30件/月。

○令和3年度の目標

- ・代行入力件数割合 月75%。

○令和3年度の目標の達成状況

| 月 | % | 代行入力数 |
|---|------|-------|
| 4 | 86.1 | 136 |
| 5 | 85.7 | 96 |
| 6 | 87.5 | 140 |
| 7 | 84.8 | 123 |
| 8 | 87.7 | 117 |

項目 NSTラウンド

○令和2年度までの取り組み

—

○現状

- ・令和2年度実施件数 2件。実施数少ない。

○令和3年度の目標

- ・NSTラウンド実施件数を年間12件に増やす。

○令和3年度の目標の達成状況

- ・4月1件 5月0件 6月0件 7月3件 8月1件。

項目 外来の電子カルテ稼働に向けた支援

- 令和2年度までの取り組み
—
- 現状
 - ・医師3名（内科1名、眼科1名、循環器内科1名）代行入力補助。
 - ・問診票入力、紹介状入力支援。
- 令和3年度の目標
 - ・外来代行業務の配置者増員（1～2名）。
 - ・返書の作成補助。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・返書（報告書、逆紹介）の作成補助。

項目 退院サマリ作成補助

- 令和2年度までの取り組み
 - ・診療情報管理室と連携し、速やかな作成を支援。
- 現状
 - ・2週間作成率90%超えをキープ。
- 令和3年度の目標
 - ・引き続き、2週間作成率90%超えに貢献する。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・2週間作成率90%超えをキープする。

項目 外来サマリ作成補助

- 令和2年度までの取り組み
—
- 現状
 - ・外来サマリの電子化を推進し、電子カルテ稼働を迎えることができた。
- 令和3年度の目標
 - ・引き続き、外来サマリ作成を補助する。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・依頼があれば、外来サマリ作成補助業務を行っている。

項目持参薬の電子カルテ入力

- 令和2年度までの取り組み
 - ・持参薬の電子カルテ入力。
- 現状
 - ・持参薬の電子カルテ入力を行い、見読性が向上した。
- 令和3年度の目標
 - ・現状維持と運用方法の検討。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・持参薬鑑別は100%実施。
 - ・鑑別書に識別コードの印字検討中。

●看護職員の負担軽減及び処遇改善

項目病棟・外来のクラーク

- 令和2年度までの取り組み
 - ・平成28年10月より事務的業務を行う看護補助者を配置。
- 現状
 - ・5病棟（4F, 5A, 5B, 6A, 6B）に配置。
- 令和3年度の目標
 - ・5病棟（3B, 4F, 5A, 5B, 6B）での病棟クラーク配置の現状維持。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・5病棟（3B, 4F, 5A, 5B, 6B）での病棟クラーク配置の現状維持。

項目予約入院や即日入院の入院前介入

- 令和2年度までの取り組み
 - ・入院前に面接を行い患者情報や退院支援介入のアセスメントを行うため看護師長、看護師を配置。
 - ・PFMで入院時カルテ準備、書類の説明実施。
- 現状
 - ・入院前に面接を行い患者情報や退院支援介入のアセスメントを行うため看護師長、看護師を配置。入院前介入を眼科から開始し、現在、産婦人科、小児科以外に対応している。
- 令和3年度の目標
 - ・PFMでの入院前介入として検査に関する説明業務の開始。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・従来行っていた予約入院、検査の説明業務を実施。即日面談に対応している。

項目 夜間における看護業務の負担軽減

- 令和2年度までの取り組み
 - ・2交替勤務の推進。
- 現状
 - ・全病棟にて2交替勤務実施（令和3年3月）。
- 令和3年度の目標
 - ・全部署での2交替勤務の継続。
 - ・3Aでの1.6対1配置加算の算定。
- 令和3年度の目標の達成状況
 - ・全部署での2交替勤務の継続。
 - ・3Aでの1.6対1配置加算の算定継続。